

診療科目 ● 内分泌・糖尿病内科学

プログラム責任者：寺内 康夫

| 附属病院         |                       |
|--------------|-----------------------|
| 主任教授         | 寺内 康夫（内分泌・糖尿病内科部長）    |
| 助教           | 伊藤 譲、富樫 優、田島 一樹、折目 和基 |
| 附属市民総合医療センター |                       |
| 准教授          | 山川 正（内分泌・糖尿病内科部長）     |
| 講師           | 岡本 芳久                 |
| 助教           | 高橋 謙一郎、阪本 理夏          |

本プログラムの特徴

内分泌・糖尿病専攻コースでは、糖尿病、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病および下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの内分泌疾患の研修をしていただきます。多くの症例を経験することで、内分泌・糖尿病・代謝疾患について、診断から適切な処置・治療まで行えるような指導体制を作っており、プライマリーケアの内容から専門分野まで広く学ぶことが可能です。

大学では主に入院患者を対象に担当医として、他科からの併診についても指導医と共に研修を行っていただきます。診療体制はチーム制で、指導医—上級医（シニアレジデント）—研修医となっており、シニアレジデントが直接症例を担当でき、必要時に十分な指導が受けられる体制をとっています。協力病院では、外来・入院患者の診療を含め、地域医療領域まで幅広く研鑽を積むことが可能です。基本的に協力病院には、研修指導可能な指導医を派遣・依頼しています。

更に、適時内分泌・糖尿病・代謝疾患の基礎・臨床研究の最前線にも触れられる機会を整備していますし、臨床研究などについて研修できる環境もあります。また、糖尿病学会専門医、内分泌学会専門医の資格を取得できるように、学会報告や論文発表の指導も十分にできる体制を整えています。



目 標

内分泌・糖尿病・代謝疾患のプライマリーケアの内容から専門分野まで偏りなく診療できる能力を身につける。さらに経験した症例について学会発表・論文発表の機会を持ち、糖尿病学会・内分泌学会の専門医を取得する。

目標とする学会認定専門資格

日本内科学会認定医・専門医

日本糖尿病学会認定専門医

日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医

主な協力病院

横須賀共済病院、横浜南共済病院、横浜栄共済病院、済生会横浜市南部病院、済生会横浜市東部病院、関東労災病院、横浜労災病院、藤沢市民病院、茅ヶ崎市立病院、小田原市立病院、国際医療福祉大学熱海病院、横須賀市立市民病院、横浜医療センター、他

| 診療科のホームページ URL  | 担当者・連絡先                           |
|---|-----------------------------------|
| <a href="http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~nai3naib/">http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~nai3naib/</a> | 伊藤 譲<br>yito_yu@yokohama-cu.ac.jp |

診療科の実績

代謝疾患（生活習慣病である、糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満症、痛風）、内分泌疾患（下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎）を主体とした、専門的内科診療を行っています。治療方針については、当科内だけでなく他科やコメディカルとも連携して、総合的な医療を目指しています

- ・外来診療：新患・再来の他、他科入院中の症例についても診療を実施しています。
- ・入院診療：糖尿病は診断・教育・治療を系統立てて実施、看護師・栄養士・薬剤師・臨床検査技師らとの合同チームで診療に当たっています。内分泌疾患は、診断を中心に各種負荷試験などの専門的診療を行っています。外科治療を要する場合には当該科と連携し、速やかな治療が行えるようにしています。手術後のフォローアップは当科で行う場合が多いです。

現在、附属病院の月間外来患者数は約2,300人で、そのうち新患患者数は約50～60人です。入院患者数は年間約300人で、ほとんどが2週間以内に退院されています。センター病院でも、ほぼ同様の実績を持っています。協力病院は、いずれも症例数では大学附属病院以上に豊富であり、様々な症例を経験することが可能です。独立性を維持しつつ、必要時には大学と連携しながら診療を進める体制も整っており、診療体制としては万全を期しています。

指導医から一言

・私がシニアレジデントに求めるものは、安全・安心・思いやりの医療提供と、未来志向型の創造的な医療です。内分泌・代謝疾患の患者さんの多くは一生この病気と付き合っていく必要があり、患者の視点に立った医療の実践が重要です。臓器障害を治療するといった短絡的な捉え方だけではなく、病気を有する患者さんと一生付き合うくらいの気構えが必要です。また、未解決な問題が多い現状を的確に捉え、その解決のための臨床・基礎研究と一緒に推進するマインドを持つ方も求めています。私が今まで培ってきたものをすべて提供し、あなた方に未来を託します。（寺内 康夫）

・診療科として、豊富な糖尿病、脂質異常症の症例数を利用して、数多くの臨床研究を手掛けています。臨床を学びながら研究の一端にも加わることができ、有意義な研修ができると思います。（山川 正）

・糖尿病・内分泌専門施設として症例が多く、診断・治療まで完結でき、興味を持った皆さんの期待に応えられると思います。糖尿病・内分泌領域とともに臨床・研究面でまだまだ発展する分野です。熱意・興味のある方、歓迎いたします。（伊藤 譲）

・内分泌、代謝領域は疾患と長い間つきあっていかなければいけない患者さんが多いです。生活習慣病は、医師からの一方通行的な治療ではなく、患者さんの心情や生活背景をできるだけ理解して、ともに治療を組み立てていかなければなりません。こういったプロセスの中で、患者さんの気持ちや行動が前向きに変わり、その結果病状の改善が得られたときには患者さんは大変喜んでくださいますし、そのような姿に私たちもやりがいと喜びを感じることができます。このような診療に興味がある方、思いやりと熱意をもって取り組んでいただける方、お待ちしております。（富樫 優）

・近年、生活習慣病、特に糖尿病の治療は、目まぐるしい発展を遂げていますが、あくまで治療の主役は、患者さんやその家族であり、医療スタッフは脇役に過ぎません。患者さん一人一人の病態や社会的背景を考え、他職種と連携するなかでチームとしてサポートし、全人的な医療を展開できるのは、糖尿病診療の大きな魅力です。最新の治療はもちろんのこと、このような全人的な医療の面白さを共有していきたいと思っています。（田島 一樹）

・内分泌・代謝疾患はホルモンの作用異常により発症しますが、ホルモンは全身に作用しており、全身を診るという総合的な内科力が養われる分野です。糖尿病診療では、患者さんが治療に向き合えるように長い時間をかけて患者さんと向き合い、医師が患者さんを背中から支えてあげるような医師患者関係が育まれていきます。糖尿病分野は研究という側面からも非常に魅力的な内容に溢れていますので、専門分野に加え内科医としての力量をつけたい、患者さんと共に歩みたい、研究に取り組んでみたいという方には最適な分野だと思います。（折目 和基）

シニアレジデントからのメッセージ

大学では豊富な指導医のもと、充実した後期研修を送ることができます。当科の特徴として内分泌・代謝疾患の専門家であると同時に、一般内科として総合的に病態を捉えることを重視しており、内科医としての考え方を身につけることができます。さらに大学では全科からの糖尿病・内分泌疾患のコンサルテーションを受け、内科だけでなくすべての科の疾患についての病態を把握でき、臨床のトレーニングとしては最適です。また、関連病院での研修や、地域医療の現場での実践、大学院の研究など、個々の希望や目標に応じてフレキシブルな研修を積むことができます。関連病院での研修でもスタッフが豊富で、それぞれの病院の地域性や特性を生かした研修が可能です。一般診療で見逃されがちな内分泌疾患を発見・治療することや、予防医学の観点から糖尿病及び生活習慣病の治療により患者さんの健康をより長く保つことは、非常にやりがいがあり魅力的な科であると実感しています。